

九十條獨國商法第六百三十一條：掲クル所  
ニシテ既ニ第八百七十七條ニ記セシ海員ト  
ノ契約上ニ係ルノ原則ヲ實行シタルモノナ  
リ今契約ハ雙方ノ責任ニ歸ス可カラサル所  
ノ抗拒ス可カラサル威力ノ為メ之ヲ履ム  
能ハサルカ故ニ雙方之ヲ實行スルノ義務ナ  
ク其契約解止シタリト視サル可カラス然レ  
氏是レ其禁制ノ無限ニシテ汎ク商業及交通  
ニ係リ特リ個々ノ商品ニ止マラズ且其禁制  
期限ノ豫知ス可カラズ以テ一時ノ事ニ止マ  
ラスト豫知ス可キ場合ニ限ル若シ然ラサル  
時ハ第八百九十三條ノ規則ヲ適用ス可シ

本條ノ第二段ハ古ノ如キ禁制航海中ニ起リ  
為メニ船舶其航海ヲ終ル能ハス以テ歸途ニ  
就カサルヲ得サル場合ニ係ルモノナリ今此  
場合ヲ分テ二ト又一ハ船舶ヲ唯タ往路ノ為  
メニ借切リタル時一ハ往復ノ為メニ借切リ  
タル時はナリ此兩場合ニ於テハ本條ニ依  
リ唯タ往路ノ為メニ運賃ヲ支辨スルニ止マル  
何トナレハ航海ヲ止メ歸途ニ就キタルノ場  
所何レニ在ルヲ問ハズ往路ノ為メニ契約ハ既  
ニ實行セラレタリト視サル可ラサレハナリ  
（ベ）タリド」第二冊第七百八十六號第七百八  
十七號）今ヤ其積荷モ船舶ト共ニ歸航セサル

ヲ得ス以テ此歸航ハ併セテ荷主ノ為トニス  
ル者ナレハ右ノ規則ハ雙方ニ宜シク其損失  
ヲ分配スルモノナリ是レ佛國商法第二百九  
十九條伊國商法第四百六條白國千八百七十  
九年ノ高法第九十一條獨國商法第六百三十  
六條ト同シ獨國商法ニ依レハ借主唯ク距離  
運送貨即チ實際通航シタル距離ノ割合ヲ以  
テ運送貨ヲ支拂フノ義務アルニ過キス  
凡ソ過失ナキノ損失ハ皆所有者ノ負擔トス  
ル(カーズム、センチト、ドミヌス)一般ノ原則ニ  
因リ航海ニ方リ右ノ如キ障礙ニ際會シ積荷  
ニ生シタル費用ハ借主之ヲ負擔シ又船舶ノ

機裝及航海豫備費ノ不用トナリタル時ハ船  
長即チ船舶所有者之ヲ負擔セサルヘカラカ  
ルナリ(バダリード)第二冊第六百六十六號)

第八百九十二條 到達港カ封港又ハ其他ノ處  
分ニ因リテ閉鎖セラレタルキハ船長ハ別段ノ  
指圖ヲ受ケサルカ又ハ受ケタル指圖ヲ實行ス  
ル能ハサルニ於テハ賃借人ノ利益ヲ諱リ最近  
ノ港ニ入航スルカ又ハ發航ノ港ニ歸航スル  
ヲ要ス

貿易者クハ航海ノ禁制ハ自國他國ヲ問ハス  
殊ニ到達地ノ屬スル國ノ國權ヨリ出ル所ノ  
法律上ノ効カアル處分ニシテ封港ハ獨リ政  
府ノ令ヲ以テ之ヲ為ス得ルト雖モ是レ  
唯タ敵國ノ威力處分タルニ止マルヲ以テ必  
スシテ遵守スヘキノ性質アルモノニ非ス故

ニ之ヲ破リ又ハ之ヲ遁ル、  
得然レモ若シ其効ヲ奏セサル  
掠ニ遭フノ危険アリ又封鎖ハ實ニ行ハル、  
歟將タ其令アルノミニ止マル歟ニ依テ異同  
アリ近今是認セラレタル主義ニ依レハ封港  
ヲ破リタルノ結果ヲ加ヘシ為シハ先ツ其  
港ニ入ラントスル船舶ニ之ヲ相當ニ通知セ  
サル可ラヌ又封港ハ必スシモ永久ノ航海上  
ノ障礙ニ非ス瞬時ノ間ニ之ヲ放解スル  
リ又タ敵ノ失敗等ニ因テ排除スル  
他戰時ニ入港ヲ障礙スルノ處分ハ皆封港ト  
同視ス例ヘハ船舶ヲ沈メテ河口ヲ壅塞シ或

ハ掘割ヲ閉鎖スル等ノ如シ而シテ右ノ諸障  
礙ハ前條ノ障礙ト異ナリ何トナレハ是レ期  
セスシテ航海終了ノ際ニ起リ且無限ニ服從  
ス可キ者ニ非スシテ其結果ヲ避クルヘキ種  
々ノ方法アレハナリ此場合ニ於テハ船長ハ  
前條ニ揭ル往路運送貨ノ支拂ヲ受ケテ強テ  
歸航スルヲ得ス事情ニ依リ且其受ケタル指  
揮ニ從ヒ積荷及船舶ノ為ニ適宜ノ處置ヲ為  
サ、ル可ラス若シ特別ノ指揮ヲ受ケサリシ  
カ又ハ其指揮ヲ受ケタルモ施行ス可カラサ  
ルニ於テハ最近ノ鎖閉ナキ港ニ入航スルカ  
又ハ發航ノ港ニ歸航スルヲ例トス何トナレ

ハ是レ借主ノ為メニ最モ利益タリト視ルヲ  
得レハナリ今此入航スヘキ港ハ同一ノ國封  
港ノ屬スル國トニ屬スルモノニ限ルトノ規  
則ハ之ヲ定ムルヲ得ス船長ハ且ク事情ヲ酌  
量シ船舶ノ利益ヲ考ヘ許多ノ港中ニ於テ撰  
定スルノ自由ヲ有セサルハカラズ即チ最近  
港ニ入航スヘキ等ノ規則ハ勿論無限服從ヲ  
要スルモノニ非サルナリ

第八百九十三條 不可抗力ニ因リテ航海ノ起  
始又ハ繼續カ一時妨ヲラレタル中ハ契約ハ仍  
ホ効力ヲ有シ當事者ノ孰レニモ損害賠償ヲ求  
ムルノ權利ヲ生スルヲ無シ然レモ貸借人ハ自  
費ヲ以テ積荷ヲ處分スルノ權利ヲ有ス  
不可抗力トハ暴風雨、洪水、冰流等ノ如ク人カ  
ヲ用キテ防クヘカラサルノ天災並ニ法律上  
道徳上ニ於テ拒止スヘカラサル國權ノ實行  
ヲ云フ此ノ如キ威力ノ為メ唯タ一時航海ノ  
障礙ヲ受ケ其障礙暫時ニシテ止ムトヲ期ス  
ヘキ中ハ應ニ本條ニ從フヘシ此一時ノ障礙  
ハ航海ノ尋常ナル危險及變故ニ屬シ契約履

行ノ道ヲ絶ツ者ニ非ス故ニ此場合ニ於テハ  
其契約者ノ一方ヨリ之ヲ解止スルヲ得ス必  
ス其障碍ノ歇ムヲ待ツテ之ヲ履行セサル可  
カラス而シテ之カ為メニ生シタル損害ハ雙  
方各之ヲ負擔シ他ノ一方ニ其賠償ヲ要求ス  
ルヲ得ス殊ニ借主ハ假令時日ヲ限ルノ約  
アルモ其割合ニ應スル過額ノ運送貨ヲ支拂  
フ要セス然レモ場合ニ依リ海損ノ原則ニ從  
テ船員ノ給養ヲ共擔スヘキナリ(第九百十  
條)此原則ハ佛國商法第二百七十六條第三百  
條伊國商法第三百八十五條第四百七條第五  
百九條第九項白國千八百七十九年ノ商法第

八十四條第八十五條第三百三條獨國商法第六  
百三十九條ノ同シク是認スル所ナリ  
借主ハ船長ト共ニ航海障碍ノ歟マルヲ待ツ  
ヘキ時ト雖モ其積荷ハ隨意ニ之ヲ處分スル  
ヲ得故ニ損害ヲ防クカ為メ又ハ其販賣ヲ試  
ミルカ為メニ積荷ヲ船舶ヨリ取出スルヲ得  
ヘシ然レモ販賣ヲ試ミルカ為メニスル場合  
ニハ運送貨全額ヲ支拂ハサルヲ得ス又再ヒ  
之ヲ積入ル、時ハ其積入費用ヲ支辨スヘキ  
ト積荷揚スルニ自費ヲ以テスルカ如シ

第八百九十四條 荷積ヲ始ムル前ニ在テハ貸  
借人ハ運送債ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ヲ解除ス  
ルトヲ得若シ碇泊期間ニ一モ積荷ヲ引渡サ、  
ルルハ契約解除ト看做サレ又運送債ノ半額ヲ  
支拂フトヲ要ス

前諸條ハ關係者ノ意想外ニ生スル契約上ノ  
航海ノ障礙ヲ論シタリ本條ハ借主ニ於テ商  
業作用ノ方向ヲ變シ又ハ其欲シタル荷物ヲ  
得サリシ等ノ為メ契約ヲ解止セント欲シ又  
ハ解止セサルヲ得サル時ニ方リテ生スル所  
ノ問題ヲ判定ス此問題ハ特リ貸貸借契約ニ  
關係スルモノトス何トナレハ個々ノ積荷ニ

付テハ第九百六條。特別ノ規則ヲ定メタレ  
ハナリ今ヤ諸國法律ハ己ニ運送荷物ノ積入  
ニ着手シタルト否トノ間ニ區別ヲ立ツ而シ  
テ前者ノ場合ニ於テハ借主其契約ヲ解止ス  
ルヲ得ルモ契約上運送貨全額ヲ支拂ハサル  
可ラス後者ノ場合ニ在テハ其半額ヲ支拂フ  
ニ止マル(佛國商法第二百八十八條第三項第  
四項白國千八百七十九年ノ商法第七十五條  
第四項第五項伊國商法第三百九十六條獨國  
商法第五百八十一條第五百八十三條<sup>ト</sup>ベガリ  
一<sup>ド</sup>第二冊第七百三十七號第七百三十八號  
此區別ヲ立ツルハ己ニ積荷ノ一部ヲ船舶ニ

運ヒタルキハ借主契約ニ從ヒ其船舶ヲ使用  
シタルモノニシテ其使用航海ノ終局ニ至ル  
マテ繼續スルト否トハ借主隨意ニ在ルヲ以  
テナリ反對ノ場合ニ於テモ總テ他ノ完結シ  
タル契約ト同シク其運送契約効力アリト看  
做ス可シト雖モ借主ニ貸主ニ相當ノ  
辨償ヲ出シ其契約ヲ解止スルノ權ヲ以テス  
何ニトナレハ是レ海上貿易ノ作用變轉シ易  
スキカ為メニ此ノ如キ特遇ヲ為スヲ便宜ト  
スレハナリ然レモ是レ其船舶航海ニ適セス  
又ハ己ヲ得サルニ非スシテ他ノ船舶ヲ換用  
シタルカ為メノ如キ正當ノ理由ヨリスル解



約：非サル中：限ル此ノ如キ場合：於テハ  
何時ニテモ總テ辨償ナク解約スルヲ得ルモ  
ノナリ

借主其積荷ヲ交付セサル時ハ解約ヲ明言シ  
タル場合ニ同視シ之ヲ事實上ノ解約ト見做  
ス可キナリ(獨國高法第五百八十六條)

船舶ヲ往返ノ航海ノ為メ借切リタル時ニ  
於テモ荷積：着手シタルト否ト：隨ニ往返  
運送債ノ半額若クハ全額ヲ支拂ハサルヲ得

又(バ)ダリ―ド氏第七百三十七號獨國  
高法第五百八十四條：ハ後者ノ場合：於テ  
ハ運送債總額ノ三分ニヲ支拂フ可キモノト

為スト雖モ充分ノ理由アル：非ズ

他ノ一方：於テハ船長即チ貸主ニ借主同様  
其契約ヲ解止スルノ權利ヲ與ハス其契約上

ノ義務ノ全部又ハ一部ヲ履行セサル時ハ普  
通ノ原則ニ憑テ判ス可キカ故ニ破約ヲ以テ

借主ニ加ハタル損害ヲ辨償セサル可ラズ是  
レ契約中船舶ヲ賣却シ其買主：於テ該契約

ヲ引受ケサリシトアル時ニモ然リ

第八百九十五條 貸借人ハ其過失ニ因リテ積荷ヲ沒收セラレ又ハ差押ハラレタルキハ運送貨ノ全額ヲ支拂ニ且此カ為メ生シタル損害ヲ賠償スルノ義務アリ

積荷ノ沒收又ハ差押ニ逢フハ特リ借主ノ法律犯遺ノ所為ニ起因ス例ハ稅關規則ヲ犯シ戰時禁制品ヲ運送スル等是ナリ此ノ如キ行為ニ就テハ獨リ借主其責ヲ負擔セサル可ラス其法律ヲ犯シタルヨリシテ契約上ノ義務ヲ免カル、能ハス加之其行為ニ罪過アル時ハ運送貨ノ外尚ホ其損害ヲ辨償スルノ義務アリ例ハ船舶ノ積荷ト共ニ沒收セラレ

又ハ船舶機装ノ徒費ニ屬シタル場合ノ如キ  
是ナリ(獨國商法第五百六十四條)

第八百九十六條 船長ハ債借人カ約定シタル  
積荷ノ全部ヲ積込マサルニト雖モ契約ヲ解除  
セサルニ於テハ航海ヲ為スノ權利ヲ有シ義務  
ヲ負フ此場合ニ於テ運送債ノ全額ニ對スル擔  
保ヲ缺クニハ更ニ其擔保ヲ求メ又積荷ノ不才  
分ナル為メニ損害ヲ生シタルニハ其賠償ヲ求  
ムルヲ得

借主契約ヲ解止スルニハ其積込前ニ於テス  
ルト其後ニ於テスルトニ隨ヒ第八百九十四  
條ニ依リ運送債ノ半額或ハ全額ヲ支拂フ若  
シ荷物ヲ全ク交付セサル時ハ事實上ノ解約  
ト見做ス然レニ碇泊期限ノ終ルマテニ契約

上ノ積荷ノ一部ヲ出シタル時ハ船長ハ其積荷ノ全部ニ至ルヲ待ツヲ要セス其一部ノ積荷ヲ以テ航海ニ就クラ得又借主ニ於テ出航ヲ請求スルヲ得可シ故ニ契約ノ履行ハ積荷ノ全部ヲ出シタルト否トニ關セサルナリ然レ氏此場合ニ於テ借主ハ尙ホ契約ノ運送貨金額ヲ支拂ニ且積荷少量ナルカ為ニ生シタル損害例ヘハ底荷ヲ積入レ其他保安ノ為メニ要シタル費用ヲ辨償セサルヘカラサルハ論ヲ竣タヌ(獨國商法第五百七十一條第五百七十九條第五百八十條)佛國商法第二百零八十八條第一項及第四項ニハ辨償義務ノ事

ニ係リ明文ヲ掲ケヌト雖モ右ノ如ク之ヲ解釋セサル可ラス(バダリード)第二冊第七百三十三號)今ヤ運漕貨ノ半額或ハ金額ヲ以テ專ラ辨償ニ充ルハ第八百九十四條ノ場合ニ於テ契約解止ノ為メニ航海ヲ為サ、ル時ニ限ル本條ノ場合ニ於テハ航海ヲ為シタル時ヲ謂フ又船長ハ運送貨ノ要求ヲ安全ニセシメ為メニ其擔保ヲ供スルヲ請求スルヲ得ヘキトス

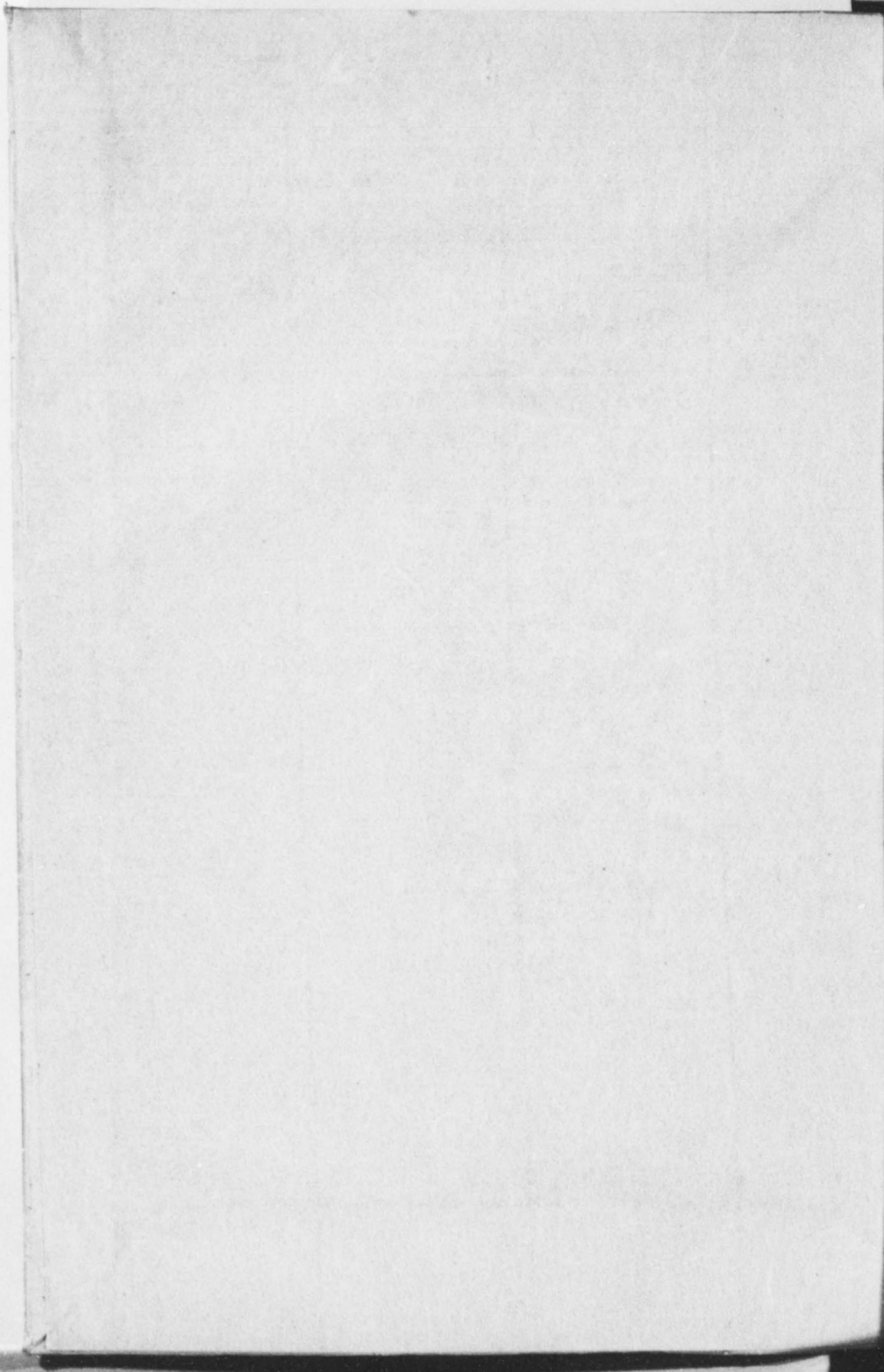
第八百九十七條 他ノ運送品ニ付キ得タル收  
入及ヒ航海ヲ止メタルニ因リテ減シタル費用  
ハ運送貨ヨリ之ヲ扣除スルヲ得ス但第九百  
五條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス  
本條ノ規則ハ他國ノ法律ニモ間接ニ是認ス  
ル所ナリト雖モ之ヲ確然ト明言スルハ必要  
ナシト似タリ(佛國商法第二百八十七條第二  
百八十八條白國千八百七十九年ノ商法第七  
十二條第四項獨國商法第五百八十五條)借主  
辨償トシテ運送貨ノ半額又ハ全額ヲ支拂フ  
ヘキ場合ニ於テ其全額ナル時ハ契約ニ從ヒ  
其船舶ヲ使用スルヲ得ヘシ然レモ半額辨償

ノ場合ト其使用權ヲ拋棄シタル時トニ於テ  
ハ船舶所有者ヲシテ併セテ其使用權ヲ拋棄  
セシムルヲ能ハス即チ船舶ノ眞個効用ヲ止  
メ正當ノ理由ナクシテ航海ヲ中止セシムル  
ヲ能ハサルナリ然レ借主其船舶ヲ使用スル  
モ充分ナラサルハ契約ニ依リ尙ホ充分使  
用スルノ權アリ(第八百九十六條)且他ノ貨物  
ヲ同一ノ到達港ニ輸送スルヲ禁スルハ借  
主ノ利益トスル所ナキニ非サルナリ而シテ  
此權ヲ拋棄スルハ明言ノ許諾ニ出ラサル可  
ラヌ必スシモ他ノ積荷ヨリ生スル運送債ノ  
收入ヲ單ニ船舶ニ寄贈スルノ義務ナシ故ニ

其收入ハ自己ノ運送債ニ歸ル負債額ヨリ扣  
除スルヲ得ヘキト恰モ其船舶ノ餘地ヲ他人  
ニ貸シタルト同シ(「バダリ」ト第二冊第七百  
二十八號)

第八百九十八條 船舶貸借契約ニ關スル原則ハ貨物運送ノ外ナル目的ヲ以テ航海スル為メノ船舶貸借契約ニ之ヲ適用ス

諸國ノ法律ニ於テハ高岳運送ニ係ル船舶貸借ノ法律ニ就テ論スト雖モ船舶ハ他ノ目的即ケ兵隊ノ運送、漁業、學術上ノ研究航海等ノ為メニ貸借スルヲ往々ニシテアリ故ニ少クモ貨物ニ係ル貸借ト同一ノ原則ヲ此ノ如キ場合ニ適用スヘシトノ一般原則ヲ定ムルハ適當トスルニ似タリ即ケ解約運送貨ノ支拂航海ノ障礙及停止等ニ係ルモ、如キ是ナリ

This image shows a page from a ledger or account book. The page is ruled with vertical lines, creating a grid of columns. The page is mostly blank, with some faint markings and a small handwritten number '2' in the top left corner. The binding of the book is visible on the right edge, showing several metal fasteners or staples. The paper appears slightly aged and has a light beige tone.



